

時の流れの中で静かに息づく小さな村と、そこに凜と生きる人々の姿を優しく描き出す。

福島会津を舞台に、廃校となった学校で一人静かに暮らす年配の元校長先生と、過疎が進むその村に暮らす人々の記憶を穏やかに優しく描く。作品の舞台となるのは、日本の原風景とも言われる奥会津の昭和村。1場面1場面が、絵画のように美しく、ゆったりと流れる時間の中に紡がれる人々の記憶の物語は、まさに大人のファンタジー。

本作でメガホンをとったのは、「美式天然」で第23回トリノ国際映画祭にて、史上初のグランプリ&最優秀観客賞のW受賞を果たし、その後も世界各国の映画祭に招かれ高い評価を得ている坪川拓史監督。主人公・野田を演じるのは実力派俳優、西島秀俊。野田を温かく見守る恩師の娘・リツコに日本の名女優、倍賞千恵子。元校長は舞台演劇界の宝と称される、坂本長利。



ストーリー

ある村の廃校に、その小学校の元校長先生（坂本長利）が暮らしていた。校長先生は、もう使われることのないこの校舎を修繕しながら、「消えゆく我が舎」をいとおしむように静かに日々を送っていた。しかし、いよいよその校舎も解体されることが決まる。

ある日、かつてこの小学校で学んだ男・野田（西島秀俊）が博物館の職員として、校舎に保管されていた遺跡出土品の整理にやって来る。野田には、誰にも明かしたことのない「小さな秘密」があった。

しかし校長や恩師であった綾子先生、その娘リツコ（倍賞千恵子）と接していくうちに、小学校での懐かしい記憶が呼び戻され、徐々に野田の心に変化が訪れる。そして校長の校舎に託する思いにも次第に共感を寄せるようになる。そんな折、村の老人施設にいた綾子先生が、隣町の大きな病院に移ることになる。娘のリツコに付き添われて村を離れる道すがら、綾子先生は学校に立ち寄り、校庭を見渡しながら小さく呟いた。「あの子どもたち、どこへ行ったんでしょうねえ。」その時…。



昭和村とは

福島県の奥会津に位置し、“日本の原風景”とも言われる美しい山村。「からむし織」の里として知られ、原料となる苧麻（からむし）を本州で唯一生産している。宿根カスミソウの栽培面積でも全国1位を誇るなど、その豊かな自然を活かした伝統を育んできた。本作は、昭和村にたたずむ築70年を超える旧喰丸小学校の廃校舎を舞台に構想から7年、撮影期間3年半を掛けて、じっくりと丁寧に作り上げられた。



折り鶴について

古来より「折り鶴」には、願いを掛け、魂を込める対象であるとする風習が日本にはありました。一羽一羽心を込めて折る、折り続けるそのことが、切なる願いを持つ人々の大きな心の支えになってきたのです。監督の呼び掛けに応じて、日本全国はもとより北欧や南米など、広く世界中から送られた10万羽に及ぶ「折り鶴」が作品には登場します。2010年までに3年以上のときをかけて寄せられたその一羽一羽に、様々な人々の様々な思いが込められています。



会場 **座・高円寺2**
全自由席（開場は、上映時間の30分前）
1,500円 / （当日1,800円）
4月9日（水）より、チケットぴあにて販売開始！

待望の東京上映会決定！どうぞお見逃しなく！

6月7日（土） ①11時15分～13時30分
②17時30分～19時45分
6月8日（日） ③11時15分～13時30分
④17時45分～20時00分